

5-3 庁内ニュース「Ice Break」 の発行(資料)



Ice Break

Vol. 1



『Ice Break』は政策創造担当が配信する情報誌です。
仕事の合間に、少しリラックス。いろんなことを『俯瞰』してみると仕事の幅が広がるの
では…そんな思いを込めて名付けました。

◆◆◆今月の目次◆◆◆

- ▶ 自治体シンクタンクの役割
- ▶ 裕福なまち第1位
- ▶ 少子高齢化の進む郊外住宅地
- ▶ 政策形成入門講座

政策創造担当なる部署が創設されて早くも1年半が経過しました。そろそろ目に見えた成果を出さなくてはと焦りながらも、成果は政策創造担当が直接ださなくても…庁内のどこかで出てくれば良いのだ！と励まし合っている今日、この頃です。でも、その通りだと思います。政策立案は、政策創造担当だけでできるものではなく、実際に事業に携わっている全ての職員が、様々な場面で問題意識を持ち、それを解決していこうという気持ちが必要です。このため、職員の皆さんに様々な情報を共有していただくために『Ice Break』を発行してみようと考え、今回試行的につくってみました。定期的にとの約束はできませんが、最低でも4半期に一度位は、発行する予定でいます（評判が悪ければ「試行版」で終了の可能性もあります。）。横浜市の「調査季報」や戸田市政策研究所の「めるまが」には、到底及びませんが…徐々に内容を充実させていきたいと考えています。

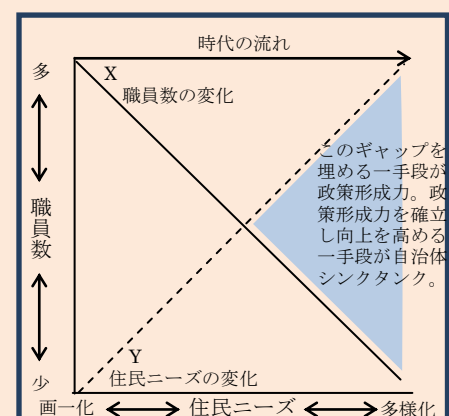


▶ 自治体シンクタンクの役割

政策創造担当は、平成23年4月に「市民参画型政策研究機関」の中核機能として設置された組織で、いわゆる「自治体シンクタンク」です。近年、他の自治体でもこの「自治体シンクタンク」の設置が目立つようになってきました。「政策形成の戦略と展開（牧瀬稔著）」によると、設置の理由は、大きく5点、①地方分権の影響、②住民ニーズの多様化・多発化、③企画部門の制度疲労、④財政難（予算の削減）⑤議員からの質問・要望としています。この中に自治体シンクタンクの役割を分かりやすく説明している図がありましたので引用してみました。右図をご覧ください。縦軸は自治体職員数の増減、横軸は住民ニーズの多様化・多発化の度合いを示しています。そして、時代の流れが左から右に進むことを示しています。

自治体職員数（X）は、時代の経過とともに減少していく傾向にある一方、住民ニーズは時代が進むにつれて多様化し多発化することにより自治体の業務量が拡大していくことになります。その結果、右側にある三角形の部分がギャップとして生じてしまいます。このギャップを埋める一手段が「政策形成力」で、この政策形成力を確立し向上する一つの方法が自治体シンクタンクであるということです。また、横軸の住民ニーズの多様化・多発化を地方分権に伴う権限移譲による「業務量の増大」に置き換えてもよいとしています。とても理解しやすい図だなと感じつつ、今までと同じ方法では、仕事は溜まる一方で、市民サービス向上も望めないということを改めて感じさせられました。

まだ、スタートして間がないといえ、既に1年半が経過しました。時代の変化を常に的確に捉え、市民サービス向上をめざし、効果的な政策立案に皆さんとともに取り組んでいきたいと考えています。「自治体」シンクタンクは、理論だけではなく実践を伴う研究ができることが特徴です。その特徴を



最大限生かして、皆さんとともに鎌倉の魅力を向上させていきたいと思います。よろしくお願いします。

➡ 裕福なまち第1位

日本のいい街 2012 が週刊東洋経済（10/13）で紹介されました。これは、東洋経済新聞社報が毎年発行している「都市データパック」のデータを基に分析したもので、都市データパック 2012 年版に既掲載の「住みやすい街」ランキングの他、「発展力のある街」「高齢者が住みよい街」「安心・安全な街」「裕福な街」「出産・子育てしやすい街」「財政力のある街」の6分野について全国ランキングを1位から150位まで紹介しています。さて、鎌倉市のランキングは？というと、「裕福な街」では堂々の第1位、その他「住みやすい街」ランキングでは25位、「安心・安全な街」では51位、その他の分野では150位以内のランキングはありませんでした。評価の視点は、例えば「裕福な街」ランキングでは、納税者一人当たりの所得・持家世帯比率・1住宅当たり延べ面積・平均地価・生活保護被保護実人員数・小売業年間商品販売額の項目を、「安心・安全な街」では、建物火災件数・交通事故発生件数・刑法犯認知件数・都市公園面積・南海トラフ地震最大震度予測の項目を順位比較し、算定しています。なるほどと思う反面、この数値だけで判断するべきかなとも思われます。特に住みやすいかどうかは、主観的な部分が多く、客観基準で比較できるものではないと思いますが、真摯に受け止め、今後の政策立案の参考にしていきたいと考えています。参考までに、県内自治体の順位を紹介します。都市間競争が激化する時代、全ての分野で上位にランクされるまちでありたいと思います。

○住みやすい街ランキング（括弧内の数値が順位）

鎌倉市（25）、逗子市（37）…公表は40位まで

○発展力のある街ランキング

茅ヶ崎市（15）、伊勢原市（48）、綾瀬市（66）、川崎市（95）、藤沢市（118）

○安心・安全な街ランキング

逗子市（30）、鎌倉市（51）、秦野市（78）、茅ヶ崎市（115）、川崎市（123）、横浜市（138）、横須賀市（142）

○裕福な街ランキング

鎌倉市（1）、逗子市（9）、茅ヶ崎市（140）

○財政力のある街ランキング

藤沢市（75）、海老名市（83）、座間市（100）、大和市（126）、茅ヶ崎市（127）、平塚市（134）

○出産・子育てしやすい街ランキング、○高齢者が住みよい街ランキングは、県内市町のランキングなし。

➡ 少子高齢化の進む郊外住宅地

本市には、高度経済成長期に開発された住宅地が数多くあります。昭和35年に98,617人（23,828世帯）であった人口が、昭和45年には139,249人（39,026世帯）と10年の間に約1.4倍に増えていることから、その数の多さを実感することができます。開発からおよそ半世紀が経過した今、これらの住宅地では、当初購入者の一斉高齢化により、著しい高齢化が進行しています。具体的な数値を見てみると、本市の平均高齢化率約28%に対し、例えば鎌倉逗子ハイランド47%今泉43%となっています。（平成24年4月1日現在）高齢化の進行は、空地・空き家の増加、コミュニティや地域活力の低下を引き起こし、さらに移動や買い物困難など住民の将来不安の増加につながります。このまま同時多発的にこのような高齢化が進めば、都市経営にも大きな影響を及ぼすことは否めません。今後、全国的にも深刻になる少子高齢化の課題に対し、本市では今泉台をモデルにその課題や対応策、いつまでも安心して住み続けることができるまちをつくるための住民と行政の役割分担などを検討することを目的に庁内関連課と連携し、昨年10月にプロジェクトチームを設置しました。これまで住民の方々との協働体制を整えるとともに課題の抽出や順位づけなどを行い、今年6月には、「社会技術研究開発センター」の研究開発プロジェクトである「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」に応募しましたが、残念ながら採択には至りませんでした。現在は、このプロジェクトに協力していただける大学・企業と地域住民を交え、具体的な進め方について協議を

進めています。複雑・高度化する課題を解決するためには、単独の部署だけでなく庁内一丸となって経験や知識を集結させることが必要です。また、大学や企業の協力を得ることや、外部の補助金を獲得することが効果的なことはいうまでもありません。先進的な取り組みをしている自治体では、このような手法が積極的に導入されているようです。本市でもこのような取り組みが定着するようにしていきたいものです。プロジェクトの進捗状況等については今後時期を捉えご報告していくようにします。

..... プロジェクトメンバーより *.....*

昨年10月に3つめの兼務辞令が出て、以来毎週木曜日の15時には、なぜか政策創造担当の専用会議室(?)となった大谷副市長の応接室で打ち合わせを行っています。技術職であるために、どうしても仕事上関わりのある課が限定されてしまいがちの私にとっては、庁内の各部署から集まったメンバーと、いろいろなことで喧々諤々と議論をしたり、ない知恵を絞り合いながら、課題解決のために取り組むこのプロジェクトは、何とも刺激的な時間です。「もうダメかな」と思った時に、「渡りに船」のような話が来たり、紆余曲折しながら、何とか前進しているようなところもありますが、偉大な使命を達成するために、これからがんばります!!

◆ 政策形成入門講座

少子高齢化が進行しているのはわかっているけど、他都市と比較してどうなのだろう。今後、どんなスピードで進行し、どんな影響がでてくるのだろう。財政は…公共施設の維持管理は…エネルギー問題は…等々。「問題意識は持っているものの、なかなかじっくり考える時間がなくて。」と思っている職員は多いと思います。このため、政策創造担当では、このような市の抱える問題について担当部署や専門家（政策創造専門委員）を交え議論をし、その解決方法を考える「政策形成入門講座」を開催することにしました（それぞれの課題については、開催会毎に担当部署からわかりやすく説明をします。）。ぜひこの機会に参加して、視野を広げ、積極的に政策立案に取り組んでみましょう。なお、今年度は試行として、3回程度の開催を予定しています。第1回目の開催は下記のとおりです。多くの皆さんの参加をお待ちしています。



日 時：平成24年11月28日（水）17:45～19:45 場所：822会議室

テーマ：鎌倉市の現状を分析する

（鎌倉の将来人口や財政の推移を予想し、将来の姿を専門委員を交え皆で議論します。）

..... 政策創造専門委員から（発行によせて） *.....*

「縦割り」と批判されることの多い行政組織ですが、資金・資源を投資して利益を求める企業とは違って、資源を配分して「公共の福祉」を実現するためには、健康福祉、教育、インフラ整備などの異なった分野ごとの責任体制を明確にする縦割りは必要です。ただし、地域社会に責任を持つ公務員として、広い視野を持った専門性がさらに重要なのはいうまでもありません。その意味で、この『Ice Break』が、分野横断、政策創造の視点からの情報交流の機能を果たすことを期待しています。



◆◆◆ その他 ◆◆◆

ご意見等ありましたら下記までお願いします。

また、原則として無断転載を禁じます。なお、転載を希望される方はご相談ください。

◆◆◆ 『Ice Break』 に関するお問い合わせ ◆◆◆

鎌倉市 政策創造担当

神奈川県鎌倉市御成町18番10号

TEL：0467-23-3000（代表）

（内線 2793）

FAX：0467-23-8700

mail：souzo@city.kamakura.kanagawa.jp



Ice Break

番外編



『Ice Break』は政策創造担当が配信する情報誌です。
仕事の合間に、少しリラックス。いろんなことを『俯瞰』してみると仕事の幅が広がるの
では…そんな思いを込めて名付けました。

◆◆◆今月の目次◆◆◆

- ◆ NISSAN New Mobility CONCEPT 試乗会&ワールドカフェを開催
- ◆ 第1回 政策形成入門講座の開催
- ◆ ソーシャルメディア facebook を活用した研究をスタート
- ◆ 第2回 政策形成入門講座

V o 1. 1 を11月に発行した際、できれば四半期に一度位の頻度で発行していきたいと書いていたにもかかわらず…約1ヶ月後に発行することができました。しかし、この様なペースで定期的に発行することは非常に困難で、「当初はマメに発行していたのに」「はじめだけだった。」などと思われるのが明らかなので、今回はあえて「番外編」とさせていただきました。平成24年も残すところあとわずかとなりました。今年のことは今年のうちにということで、11～12月に開催したイベントを含め、V o 1. 1 発行後のトピックスを紹介いたします。



◆ NISSAN New Mobility CONCEPT 試乗会&ワールドカフェを開催

11月23日（金・祝）に日産自動車株式会社と共同で次世代の電気自動車の試乗会と鎌倉の未来について考えるワールドカフェを開催しました。

日産自動車は、高齢者や単身者世帯の増加、乗用車の近距離移動・少人数乗車の使用実態といった現代の状況に着目し、新しいモビリティのカタチ、100%電気自動車 NISSAN New Mobility CONCEPT（以下「NMC」）を提案し、その活用の可能性を研究しているそうです。門司港レトロ地区や横浜元町をはじめとする各地域での試乗会の他、青色防犯パトロールとしての活用や訪問診療・看護の現場での活用なども試行的に実施しているそうです。この度、鎌倉市においても試乗会を開催し、鎌倉のまちでNMCができることは何だろう？NMCを活用して鎌倉をどのようなまちにすることができるのだろうか？を考えてみました。当日は、小雨の降る休日にもかかわらず、日産自動車㈱テクノロジーマーケティング室&有志、企業間フューチャーセンターの方々・鎌倉市民・市職員の総勢42名が参加してくれました。午前中は、NMCと電気自動車で試乗させていただきました。NMCは、前後に2人乗りで、屋根はありますが、サイドは空いています（オプションでドア取付可）。長さ234cm、幅119cm、高さ145cmとコンパクトなサイズにも関わらず、最高速度は、時速80kmだそうです（もちろん今回はテストできませんでした）。非常にコンパクトなので狭い道に多くの歩行者がいても比較的スムーズに走ることができました。歩行者を避ける時もクラクションを鳴らすのではなく、「こんにちは、すみません！」と声をかければ「あっ、ごめんなさい」とちょっとしたコミュニケーションが生まれました（いつもの？「邪魔だなあ」「危ないなあ」といった陰湿な感じはありませんでした）。



ただ、開放的であるため普通の自動車と比べると寒いし、雨の吹き込みもありました。しかし、日産自動車の方から「自動車だと思うからですよ。バイクだと思えば快適でしょう？これは、自動車でもバイクでもない、NMCですよ。」と言われ、納得しました。既成概念って恐ろしい！試乗した方々

からは、「鎌倉のまちのサイズにあった乗り物」「まちにとけこむ感じ」「外の音、空気が感じられる」「観光客とのコミュニケーションが楽しい」などの感想が寄せられました。

午後からは、ワールドカフェ。軽やかな音楽が流れ、お菓子やコーヒー・ジュースなどのドリンクが用意された会場は、いつものワールドカフェとは少し雰囲気異なっていました。参加者42名が8つのテーブルにわかれ、「こどもたちに残したい鎌倉の姿 ～電気自動車の可能性～」を全体テーマとして「鎌倉の好きなところ、良いところ、自慢できるところはどこですか?」「あなたは、こどもたちにどんな鎌倉を残していきたいですか?」「そのために、鎌倉のどんなところを良くしたいですか?」「そのために、あなたはどんなことをやりたいですか?」の4つのテーマでカフェセッションを行いました。「鎌倉はわくわくするまち」「遠足の思い出がいくつになってもそこにあるまち」「規制するのではなく、皆が競って守りたくなるようなまちにしたい」などの意見が交わされました。普段、あまり接することの無い異業種の方々の参加で多くの刺激を受けたと感じたのは、私だけではなかったと思います。



「他社との競争や快適性の向上を追求して来た結果、車のサイズは大きくなってきた。今日、鎌倉のまちを走ってみて地域にあったスケールの重要性を改めて感じた。」と日産自動車の方が話していたのがとても印象的でした。鎌倉のまちから発信できることは、本当にたくさんあり、もっともっといろいろな事にチャレンジしていくことの必要性を感じた一日でした。

午後のワールドカフェは、松尾市長も参加してくれて、大いに盛り上がりました。スタッフの皆さん、参加してくれた皆さん、ありがとうございました&お疲れ様でした!



第1回 政策形成入門講座の開催

11月28日(水)17時45分から職員23名に加え、南・石井政策創造専門委員の出席により「第1回 政策形成入門講座」を開催しました。この講座は、職員の政策形成能力向上を目的としたもので、今年度は試行として2～3回の開催を予定しています。

第1回目となる今回は、「鎌倉の現状を分析する」をテーマに「鎌倉市の人口推計」と「鎌倉市の財政状況」について大隅政策創造担当課長、内海財政課長からそれぞれ講義がありました。「鎌倉市の人口」では、今後の人口減少、少子高齢化の進行の予測とそれによる影響を「財政状況」では、市の歳入と歳出、今後の予測や地方交付税についての説明がありました。

各講師の説明の概要は、次のとおりです。

●鎌倉市の人口について

現在の鎌倉は、昭和30年代、40年代に、東京や横浜など大都市のスプロール化に影響を受け、大規模な分譲地の開発などにより、いわゆるベッドタウン、住宅都市として大きく成長してきましたが、昭和50年代の半ばになると人口の増加も落ち着き、昭和62年9月の176,489人をピークに、本年11月1日の人口は、174,109人、世帯数は73,221世帯となっています。

過去10年間の推移を見ると、まだ人口減少には突入していませんが、将来人口推計の結果から、今後、本格的な人口減少社会に突入します。

また、本市の場合、県内でも1,2を争うくらい少子高齢化が著しく、このまま推計のとおり人口が減少すれば、社会経済状況に大きな影響を及ぼすだけでなく、今後、ますます高齢者への行政負担が大きくなることが想定されます。

今後、団塊の世代を含め、少子高齢化の急速な進行が予測される中で、若年層と高齢者層が共存できる、バランスのとれた施策が求められるところですが、厳しい財政状況の中で、より効果的な施策を展開する必要があります。



●財政状況について（地方交付税交付団体・不交付団体について）

鎌倉市の財政の特徴としては歳入については自主財源比率が高く、特に、一人あたりの個人住民税では全国776市中、高い方から6位（H22）となっています。一方、歳出については、24.6%を人件費が占めており全国782市中、高い方から8位（H22）となっています。

また、鎌倉市は地方交付税が交付されない不交付団体であり、一般的には不交付団体は裕福な団体と言われています（全国約1700市町村のうち54市町村が不交付団体）。

地方交付税は、本来、地方の税収入とすべきですが、地方公共団体間の財源の不均衡を調整するため、国税として国が代わって徴収し、一定の基準によって再配分される交付税であり、財政力指数により交付・不交付の判断がされています。

その財政力指数が1を割ると交付団体となりますが、近年、財政状況の悪化に伴い本市の指数は平成21年度の1.215から平成24年度では1.013となっているため、今後、交付団体となる可能性が高くなってきています。

このような財政状況を踏まえた上で、これからの行政運営を行っていく必要があります。

その後、南専門委員の進行で意見交換が行われました。南専門委員からは、我が国の高齢化の進行は世界でも例を見ない速さである（高齢化率7%から14%までの移行期間をみるとフランス115年、スウェーデン85年であるのに対し、日本は24年）。単に人口の増加に対応した施策を進めれば良いわけではなく、人口増加により生活保護費が膨らんで困っている大阪市や、若年人口誘致のために導入した小児医療費助成が今では自治体間競争の火種となり、自治体財政を圧迫しているといった事例の紹介、また、地方交付税交付団体となることで大きな制約はないものの、交付の基準に従って仕事をするようになってしまうと、質の高い住民サービスを提供できなくなるなどの話がありました。



「今の時代、自治体は借金をするべきか」をテーマとしたディスカッションでは、「この時期、投資は最低限におさえるべき。」「ある程度リスクをとってリターンに期待したい。職員のモチベーションも高まる。」「投資にはしっかりと戦略が必要。」などの活発な意見が交わされました。世代や部署の垣根を超えて、鎌倉の未来について議論を交わし、職員一人ひとりが政策形成能力を高めていくための取組みを今後も定期的に続けていきたいと思います。

... 石井専門委員コメント*...*

政策形成は行政や自治体で日常的に行われている作業ですから、その基礎となる事項、たとえば本市の現状と課題、将来予測される状況、本市を取り巻く社会状況などを常に認識しておくことが必要です。立案に際しての視点は少子高齢化、環境、国際化、情報化、市民参加と協働、情報公開や個人情報保護など…。こうしたポイントを整理・共有するために「政策形成入門講座」の活用が期待されます。何よりも大切なのは市民の立場で考えること。さらには課題についての理想の姿＝ビジョンを描く姿勢を常に養うことが重要と考えます。

➡ ソーシャルメディア facebook を活用した研究をスタート

鎌倉の隠れた魅力、それを守るための日々の活動やまちへの想いを市民が発信することで、市民のまちに対する愛情を可視化し、さらに多くの鎌倉ファンが共有することで、まちの魅力を高めていこうというプロジェクトをスタートします。



鎌倉在住・在勤、鎌倉市内に住所を有する法人の方々に facebook の管理人（「かまくらさん」）になっていただき、好きな場所や風景、お気に入りのお店、地域の出来事、日常の気遣いなど、鎌倉の魅力や愛着にあふれた想いを発信していただくことで、多くの人たちに鎌倉を身近に感じてもらうという試みです。「みんながこんなに大切にしているまちなんだから」と来街者のマナーが向上し、また、「みんなが見てくれているからもっともっと大切にしよう」とホスピタリティーが向上したり…。ソーシャルメディアのメリットを活用し、単なる情報発信ではなく、双方向の交流を行うことでまちづくりにつなげようと考えています。また、日々の投稿がタイムラインに記されることで、まちの歴

史（ソーシャルヒストリー）を皆で共有し、次代に繋いで行けたら良いなあとも考えています。

世界遺産登録を目前に控えた今、鎌倉のまちの魅力を世界に発信していきたいと思います。職員の皆様も、ぜひ参加してください。よろしくお願いいたします。

➡ 第2回 政策形成入門講座

日 時：平成25年1月31日（木）18:00～20:00 場所：全員協議会室

テーマ：鎌倉市の公共施設を考える

次の世代に負担を残さない公共施設のあり方（維持・管理・運営）について



◆◆◆ その他 ◆◆◆

ご意見等ありましたら下記までお願いします。

また、原則として無断転載を禁じます。なお、転載を希望される方はご相談ください。

◆◆◆ 『Ice Break』に関するお問い合わせ ◆◆◆

鎌倉市 政策創造担当

神奈川県鎌倉市御成町18番10号

TEL：0467-23-3000（代表）

（内線 2793）

FAX：0467-23-8700

mail：souzo@city.kamakura.kanagawa.jp

5-4 プラチナ構想スクール (発表資料)

わがまちのプラチナ構想

『鎌倉』に参加し

『鎌倉』をつくる

鎌倉市政策創造担当 河合 由香

《狙い》

背景

- 江戸時代から始まった観光地化（半農半漁と観光地）
- 東京都の中心から50km圏域、JRで1時間。日帰り観光地として相変わらず人気が高い。
- 地元食材を使ったレストランが多いが伴わない素材の需要と供給。
- 首都圏内でありながら、市域の4割強を占める緑の面積の多さ。

目的

- 地域事業の活性化
「宿泊体験型観光」を絡め、観光消費額を上げる。
- 地域雇用の創出
高齢者の「知」、次世代の「活力」を活用する。
- 鎌倉への愛着心の向上
市民、観光客共にもっと鎌倉を好きになる。
- 第一次産業への貢献
「体験」を通して後継者の確保。新たな事業形態へ。

◎第2表 市町村別の入込観光客数と観光客消費額の状況
(平成22年推計)

(単位:千人・千円)

市町村名	入込観光客数	観光客数	観光客消費額	観光客消費額	観光客消費額	観光客消費額	観光客消費額
延観光客数	宿泊客数	日帰り客数	観光客消費額	観光客消費額	観光客消費額	観光客消費額	観光客消費額
延22年推計	174,186	13,719	160,467	291,357,212	87,704,965	116,559,823	87,082,404
平成21年推計	(183,566)	(13,489)	(170,157)	(216,410,893)	(73,483,783)	(74,836,446)	(62,084,653)
横浜市	41,965	4,820	37,145	-	-	-	-
川崎市	13,163	-	13,163	-	-	-	-
横浜市中区	6,807	305	6,502	4,972,201	2,505,569	1,915,747	550,885
横浜西区	6,445	53	6,391	1,833,039	374,076	1,331,657	127,306
鎌倉市	19,486	344	19,143	68,356,300	5,298,828	36,395,094	26,662,378
藤沢市	15,408	392	15,016	54,309,486	3,254,772	25,653,934	25,400,780
小田原市	5,040	229	4,810	14,917,927	2,419,795	4,938,534	7,559,598
茅ヶ崎市	2,082	50	2,032	1,841,261	283,077	834,397	723,786
逗子市	1,354	19	1,335	1,041,529	177,546	561,137	302,846
相模原市	10,173	439	9,733	12,126,147	1,867,524	7,097,024	3,161,599
三浦市	5,647	780	4,867	13,452,615	6,720,824	4,425,344	2,306,447
箱根町	20,036	4,646	15,390	79,022,223	52,659,588	17,268,905	9,093,730
真鶴町	1,160	32	1,128	1,418,009	283,912	814,623	319,474
湯河原町	4,442	614	3,827	10,173,247	5,992,771	2,438,611	1,741,865

*四捨五入の端数処理をするため、延観光客数の千人単位の数値は、宿泊客数の千人単位の数値と日帰り客数の千人単位の数値の計にならない場合がある。

単位:円	総額@	宿泊@	飲食@	単位:%	延観光客数比	宿泊客数比	日帰り客数比
鎌倉市	3,508	15,404	1,868	鎌倉市	100	100	100
箱根町	3,944	11,334	862	箱根町	102.8	1350.5	80.4

《計画内容》

🌐 今までの「日帰り観光」に「宿泊体験型観光」を追加
宿泊しないと体験できないことをメニューに盛り込む

『体験・労力の提供』＋『娯楽・特典』

①早朝でないとできないこと

地引網、寺社仏閣の朝のお勤め 等

②時間をかけないとできないこと

農作業、緑の保全、マリンスポーツ 等



A 飲食、土産、拝観料のサービス・割引 等

B 「鎌倉」に貢献した証を残す

モニュメントに名前を刻む 等

◎ 今までの「観光」も残しつつ…

例えば

- 農業 1 日体験
農作業・連即売所販売・料理等
- 漁業 1 日体験
地引網・ワカメ干し、料理等
- 緑の保全体験
下草刈り・環境整備等
- 海の 1 日体験
マリンスポーツ・海のルール
やマナー・ビーチクリーン等

体験・労力



娯楽・特典

- 寺社仏閣、記念館等の入場料サービス
- レストラン飲食代サービス
- 遊歩道や柵に名前を刻む等
(環境整備関連への参加に対して)

● 現状でも宿泊・消費単価が高い。新たに「宿泊型体験」メニューを加え、より宿泊単価、消費額を上げる。

● 各事業者等（NPO含む）が単独で行うのではなく、ネットワークを作り補い合いながらお互いを活性化させる。

● ネットワークの統括部署として（仮称）コンシェルジュかまくらを作り、高齢者の再雇用のかき場としての役割も担う。

● 第一次産業の体験は、これをきっかけに興味を持ってもらい、あわよくば後継者創出に繋げたい。（アグリ産業への展開も含む）

＜成果＞

- 高齢者等の雇用創出への期待
- 次世代と高齢者の交流
- 鎌倉への愛着心
- 「世界遺産」としてのまちの整備に貢献
- 観光客の増加と地域商業の活性化
- 第一次産業への貢献
 - 従事者の増加
 - アグリ産業導入へのきっかけづくり

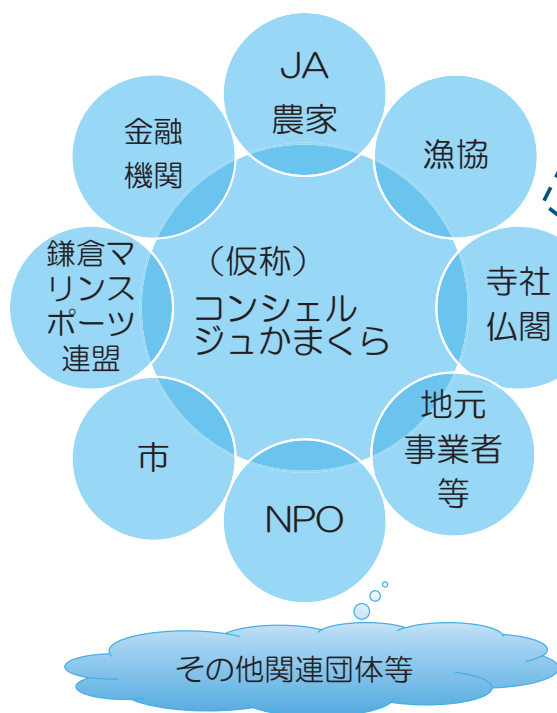
《必要条件》

- 組織立ち上げ
行政ではない誰かがキーマン
- 宿泊施設の確保
空き家（古民家含む）、商店街の空き店舗、
B & B等の活用
- 賛同者の確保
より多くの「受け入れ先」が、ネットワークに
入ることが必要
- 第一産業のアグリ産業化

《スケジュール・マイルストーン》

- 組織の立ち上げ
- 地域ごとの資源調査（空き家、空き店舗、B&B等）
- ニーズ調査（体験したいメニュー等）
- 小さめの企画作成
- 研修
- 実証実験
- 実証実験に対する振り返り・検討
- 継続、改善、拡大…

《実施体制》



- 賛同する団体が会員になり、同等の位置付けでネットワークを結ぶ。
- 全体を統括する部門は必要。
＝（仮称）
コンシェルジュかまくら
- メニューを生み出すのはネットワーク全体で。
- 連携していくにはＩＣＴなどの活用も必要。
- 空き家、空き店舗、Ｂ＆Ｂを宿泊施設として活用。

《資金計画》

● 組織立ち上げ初度調弁

- ①市の既存の補助金制度の活用
（中小企業融資制度、市民活動団体協働事業 他）
- ②市以外の補助金制度の活用



● 運営に係る経費

組織として運営していく

- ①会費制、寄付等
- ②利益を上げる



背景と目的

- ・ 新規企業の参入(情報通信業)

H.18 60事業所→H.24 **124**事業所

- ・ 新たな地域特性の創出
思考の柔軟性(古都「鎌倉」とIT)
地域力(ブランド力)向上
- ・ 生産年齢帯の増加
地域連携



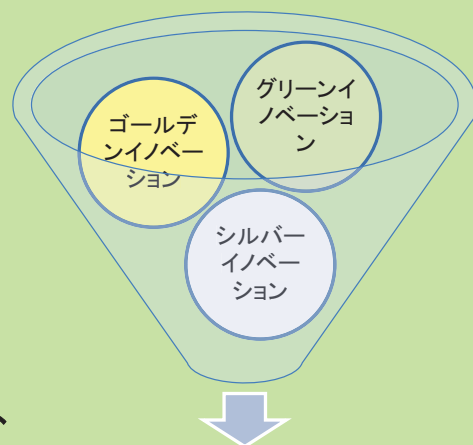
地域と育つ「カマコンバレーnet.

カマコンバレーnet.計画

- ・ ゴールデンイノベーションに向けた
It連携によるコンパクトシティ

- ・ 通信インフラの強化
- ・ 情報通信業の誘致
- ・ 地域力の再考
- ・ 事業及び地域連携
- ・ 地域サポート

他 将来計画 (在宅勤務、医療連携、
オンデマンドバス空家対策 等)



プラチナ社会

地域と育つ「カマコンバレーnet.」

アウトプット

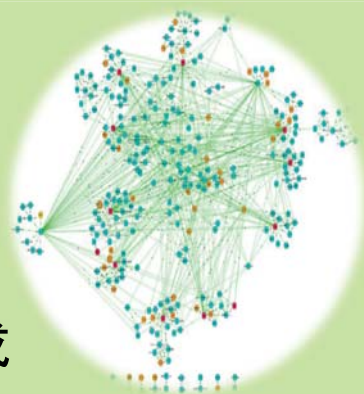
- 地域活性
地域のパソコン操作向上、コミュニティ強化等
- 事業に対する質の向上
地域の目、責任感の向上
- 雇用促進
多種多様な雇用形態。知的財産の活用を含む
- 人口減少の歯止め
雇用者家族の移住
- 税収増加
- ブランド力におけるグローバル発信



地域と育つ「カマコンバレーnet.」

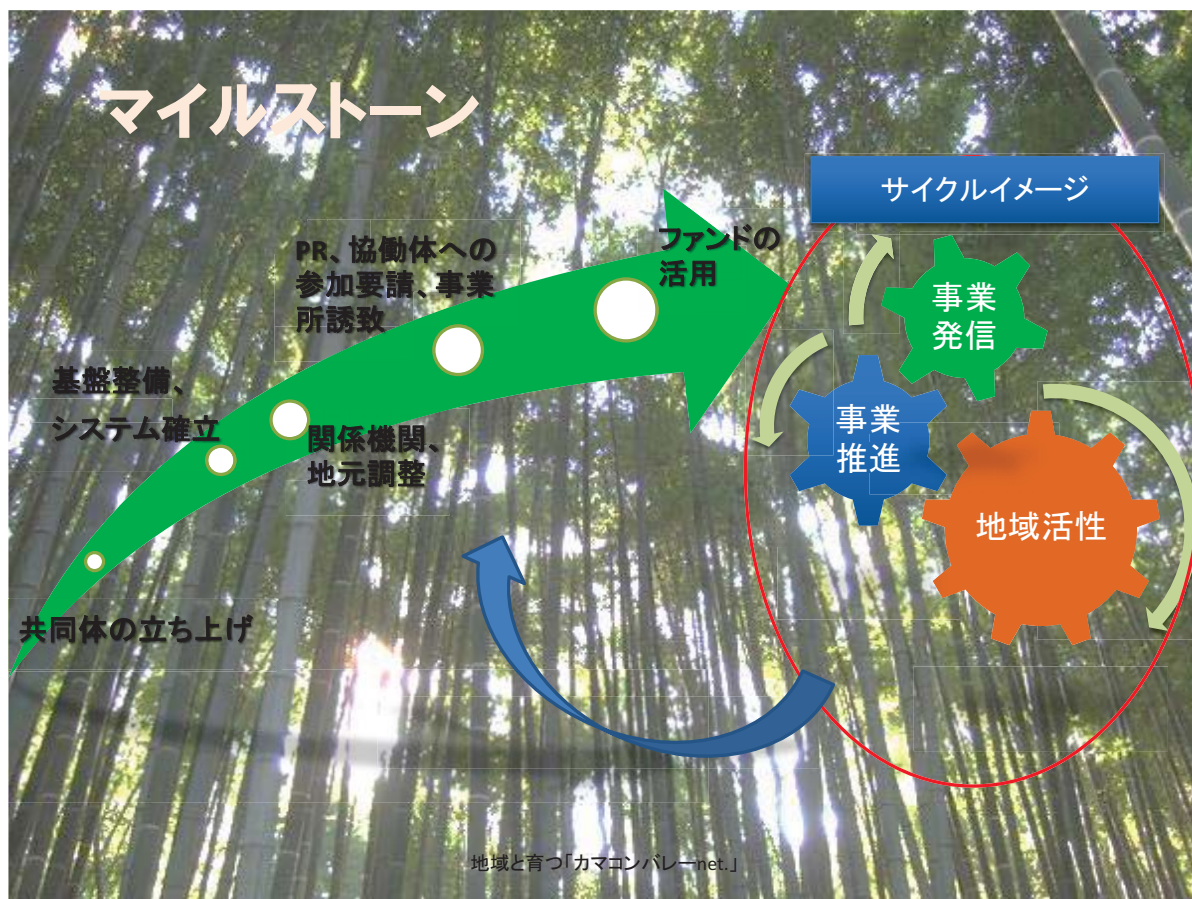
成功のための必要条件

- 資金確保システムの確立
- 全体の管理体制の確立
- 人材育成及びネットワーク形成
- 地域理解及び地域連携
- コワーキングスペースの提供
(民間ベースでは増加中)
- 居住地の紹介 他



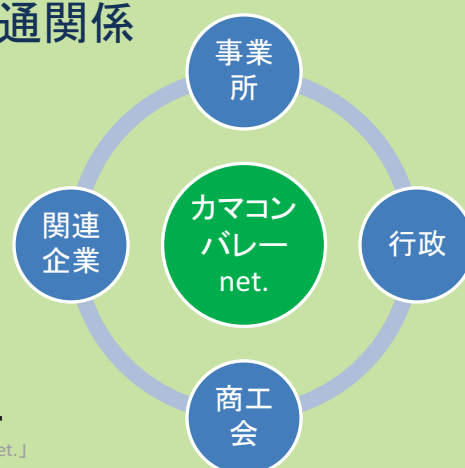
海を一望するコワーキングスペース

地域と育つ「カマコンバレーnet.」



実施体制

- ・ 事業所
IT、農業、漁業、製造、販売関係
- ・ 関連企業
通信、金融、医療、メディア、流通関係
- ・ 行政
市、県、国
- ・ 商工会



協働体(運営事務局)の設立

地域と育つ「カマコンバレーnet.」

資金計画

- ファンドの確立(地域サポーターとして)
- 関連企業からの融資(物資含む)
- コワーキングスペース等の賃料
- ネット対応等の売上

地域と育つ「カマコンバレーnet.」

ネットワークに求めるもの、他の自治体との連携の可能性等

- 自治体連携
 - 資金協力(連帯経営等)
 - 地域紹介(地域特集等)
 - 相互販売依頼
- 汎用性
 - 在宅、地域勤務(昼日人口、地域活性等)
 - 地域物産の開発(新規、地元開拓等)



地域と育つ
「カマコンバレーnet.」
～わがまちプラチナ構想～

地域と育つ「カマコンバレーnet.」



平成 24 年度鎌倉市政策創造担当業務報告書

平成 25 年 6 月発行

鎌倉市政策創造担当

〒248-8686 鎌倉市御成町 18 番 10 号

TEL 0467-23-3000（代表）

FAX 0467-23-8700